無垢材（自然塗装）のメンテナンスについて

この度は、弊社のフローリングをご採用いただきましてありがとうございます。
無垢床材の特徴を再確認していただき、永く・快適に　ご利用いただけますようお願い致します。
表面の塗装方法によってお手入れ・メンテナンス方法が異なりますのでよくご確認下さい。

1. 無垢材の特徴

・無垢は湿気にたいへん敏感です
『木』は自然の調湿機能を持ち、湿度の高い日は空気中の水分を吸収し膨張します。
また湿度の低い日は水分を吐き出し収縮します。このように無垢材は気候あるいはお部屋の環境により
伸び縮みを繰り返したいますので、こういった伸縮を考慮して施行する必要があります。
湿度の影響により反り、ねじれ、割れといった現象がでる事もありますが当社では現象を極力抑える為に
人工乾燥を入念におこなった木材を使用しています。
但し、無垢材を湿度の影響から完全に防ぐことは不可能です。
反り、割れや伸縮は木の自然現象で木が生きている証でもあります。
人間及び無垢材の快適な湿度は50～60％とされており、快適な室内環境を保持される事をお勧めします。
無垢材の特性に対するご理解をお願いします。

・木は呼吸しています
湿度の影響により、膨張や収縮が発生し、隙間や盛り上りが発生することもあります。
この伸縮や反りは木の自然現象で、生きている証でもあります。
また床暖房やエアコンなどの暖房機器等の使用も隙間、割れの原因になります。

・色違い・柄違い
自然素材の為、1枚1枚表情が違います。色や柄の違いは本物の証です。

・変色について
無垢材は天然木のため、太陽光や照明器具等により変色（日焼け）することがあります。
窓際等変色しやすいにで、なるべくカーテンやブラインドで太陽光の直射を遮ってください。
ペットの排泄物もフローリングの変色の原因となりますので、直ちに雑巾で拭き取って下さい。

・水は厳禁
水に濡らすと膨れ、反り、シミ、色むら、カビの原因になります。キッチン廻りや浴室の入り口、トイレ等水が
かかる可能性の高い場所へは水きりマットをお勧めします。
また水等こぼした場合は素早く拭き取ってください。
また、メンテナンスで業務用のポリッシャーのように水を含む物や蒸気を出す掃除器具のご使用は避けて
下さい。

・キズ・へこみ
キャスター付の椅子の使用や家具（重量物）等を置いたり、引きずったりするとキズ、へこみの原因となり
ます。特にパイン系の柔らかい材はキズがつきやすいので、硬い材をお選びいただくか,脚元にフェルト貼り
や小幅の保護材等敷くことをお勧めします。

2. メンテナンス方法　（自然塗装の場合）

日頃のお手入れ
毎日のホコリはホウキや掃除機で取り、乾いた柔かい布で空拭きしてください。水ぶきはお勧めしません。
（水ぶきをしますと自然塗装の成分が抜けてしまい、周りとの色や艶の差が出たりケバ立ちの原因になり
ます。また、汚れも付きやすくなります。）

よごれ
①掃除機でほこりを取り、固く絞った雑巾で拭いて下さい。
②それでも落ちない場合には、オイルメーカーの専用洗剤をご使用ください。詳しくは、各メーカーに
　お問い合わせください。
③最後に乾いた雑巾で乾拭きをします。

水などをこぼしてしまったら

速やかに乾いた布で水分を拭き取ってください。特に色のついた液体(しょうゆ等)はすぐに拭き取ってください。万一、放置して水分を吸ってしまった場合シミになったり、木の表面が収縮により反り、割れが起きる場合もございます。

***オイル仕上げは、塗膜を作らない仕上げのため水分が浸透しやすく、色もの液体の場合には、なかなか落ちなくなってしまう場合があります。また、水分を拭き取らずに放置しておくと、水分の蒸発と共にオイル成分が抜けてしまい、ケバ立ちや膨張が発生します。**

***洗面化粧台などの水廻りは水・石鹸成分が飛び散ることがあります。石鹸などに含まれる成分は浸透性や洗浄機能が高く、そのまま放置しておくとカビが発生したり・色落ちが発生します。飛び散った場合には、すぐに乾いた布などでふきとっていただけますようお願い致します。一度発生したカビは取り除くのが難しいのでご注意ください。**

ワックスかけ目安・塗りかた

ワックスは塗装したオイルメーカーのをご使用下さい。また、塗装方法等はメーカーによって異なりますので必ず各メーカーの「取扱説明書」をよく読み、使用上の注意を守ってください。
また、塗装前に目立たない部分で試し塗りをしてください。

ご注意

・ウレタン塗装用のメンテナンス用品は使用できません。必ず専用のメンテナンス用品をご利用下さい。
・大量のワックスを撒き散らしての塗布はしないでください。
・濡れたままの状態にしておくと、床材が反ったり割れたりする原因になります。すぐにふき取って下さい。
・水分を多く含んだモップや雑巾でのお手入れはしないでください。
・薬品の付いた化学モップなどは変色の原因になる場合があります。十分にご注意ください。
　また、長時間放置しておくと変色するおそれがあります

補修方法について

- 軽微な傷・クリーナーで落ちない汚れを落す場合
  ①傷、汚れなどを＃180～240位のサンドペーパーで杢目方向に沿って、かけます。
  (このとき、小さい番号のものから大きいものへ順番にかけていくときれいに仕上がります。)
  ②掃除機でほこりを取り、乾いたやわらかい布できれいに拭き取ってください。
  ③布を2枚用意し、使用している塗料を1枚目の布で板の継ぎ目を避け、木目方向に沿って少量づつすりこむようにできるだけ伸ばし、フローリングの溝に塗料が入らないよう薄く均一に塗ります。
  ④もう1枚の拭き取り用の布で余分な塗料を拭き取ってください。(塗りすぎ注意)
  ⑤乾いてから丁寧に空拭きすると汚れの防止とともに艶だしの効果もあります。

ご注意

塗装の失敗の原因は、ほとんどが塗りすぎによるものです。塗布量を誤ると塗りムラ、艶ムラの原因にもなります。すりこむようにできるだけ伸ばし、フローリングの溝に塗料が入らないよう薄く均一に塗ります。軽微な傷は上記方法で補修できますが、ペットなどによる深い傷、タバコなどの焦げ跡は一度つくと取れません。十分ご注意ください。

凹み傷が出来た場合

- 軽微な凹みのみ下記の方法で、多少修復できる場合があります。
  ①アイロンと濡れタオルと水を用意します。
  ②凹んだ場所に水をほんの少し垂らします。
  ③少し水分を床材に浸透したら濡れタオルをその上に置きます。
  ④その上にアイロンを載せて温めてあげます。
  ⑤5～10秒ほどを2～3回繰り返すとある程度元に戻ります。
  ⑥その後、床が乾いて時に毛羽立ち等がある場合には＃180～240位のサンドペーパーで杢目方向に沿って、かけます。